事情を想像する

立命館守山中学校二年　岩永　星南

それはまだ五月なのに夏日だった日のこと。私はその日、陸上の大会の帰りでした。帰りの車内は混雑していて、リュックを足に挟んで立っていました。すると見知らぬお爺さんに「リュックを床に置くな」と強い口調で言われました。

私は「こんな暑い日に走った後で疲れているのに、この大きくて重いリュックを前に抱えろというのか。こっちの気持ちも考えてほしい。」とイラッとしてしまいました。またその電車は同じ大会に出た同年代の人が乗っていて私を見る視線がとても痛く、「あのお爺さんのせいで」とおじいさんがドスドスと降りて行った後も悲しみはすぐには消えませんでした。しかし、この事をきっかけにリュックを床に置くことがそんなにも悪いことなのか、検索をしたり、人に聞くと様々な意見を知り、確かに邪魔だと思っている人もいることが分かりました。

また、その後乗り換えた電車でもこんな出来事がありました。おじさんが二人用の席の手前に座っていると、お年寄りのおじいさんが「詰めてもらえませんか」と言いました。すると、座っていたおじさんはイラッとした様子で奥に詰めました。私は、おじさんの態度に悲しい気持ちになりましたが、次の駅で降りていくのを見て気持ちが変わりました。もしおじさんが「すみません、でも次の駅で降りるので奥に座ってもらえませんか？」と言うことができればおじさんもおじいさんも気持ちよく座れたと思います。正直、私ももうすぐ降りる時、奥に詰めなかったことがあります。自分の降りる駅で降りられるか不安になるからです。しかし、やはり自分も罪悪感はあるので、座席を譲って立ったり言葉にしたり出来たらお互い嫌な気持ちにならないと気付きました。

今から考えるとこれらの経験は私にとって必要なものだったと思います。なぜなら、自分の感じていることについて考えるきっかけになったからです。

先日動画で、バスにお年寄りが乗ってきて、それを見た乗客が座っていた若い男性に「譲れ」と言った。しかしそこで立った若い男性は義足だったという話を見ました。私はこれを見て、それぞれ人には様々な事情とストーリーがあり、見かけだけで「悪」と決めてはいけないと実感しました。

このように、世の中にはいろいろな人がいます。もしかすると、私に「リュックを床に置くな」と言ったお爺さんは、潔癖症で汚いと思ったのかもしれないし、以前誰かのリュックでつまずいて転んだことがあるのかもしれません。また、電車で「奥に詰めてもらえませんか」と言った年寄りのおじいさんは今日どこかが痛くて立っていられなかったのかもしれないし、これから嫌なことをしなければならなかったのかもしれません。逆に、奥に詰めなかったおじさんは、私と同じように罪悪感がありながらも、次に降りやすいようにしていたのかもしれません。

私は小説を読むのが好きなのですが、小説の中では登場人物の背景を読むことができます。もしその人物が主人公に対して意地悪だと悪者になりますが、もしその悪者が主人公で、その人の抱えている思いや事情が読めれば応援したい気持ちになるはずです。だから、みんながお互いの事情を想像し、受け入れようとすれば、みんなが助け合える社会になると思います。

どんな人にも、何か理由や目的があるのは確かです。生活する上で出合う様々な人や物事を否定や批判をしそうになった時、背景を想像することで世界の見え方が変わると思います。そうして人や物事を大切にする事ができたら、他の人だけでなく自分自身が笑顔でいられる時間も増える気がしています。